

地理教材のあれこれ

黒石商業高校 横山 慶治

1. 本校の社会科のカリキュラムは次表のとおりである。

学年	1 学年	2 学年	3 学年
科目	現社 (2)	現社 (2) 地理 (3)	日本史 (3)

()は単位数・各学年6クラス

2. 創立13年目、その間“地理”の指導にあたっているが、本校では既して社会科の基礎力が不足気味の生徒が多く、そのためにも、いかに教材を加工し、工夫を凝らして生徒に科目への関心を惹起するにかかっていると考える。これまで私が授業で実践した中からいくつかの資料を提示して、大方のご教示を得たいと思う。

3. (1)『人口単元』の指導について

(イ) いかに導入するか (図1)

図1 わが国の人口ピラミッド (昭和59年10月1日現在)

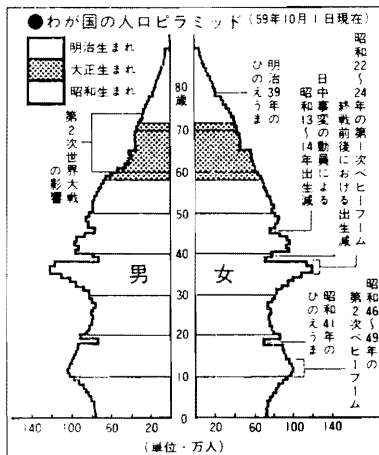
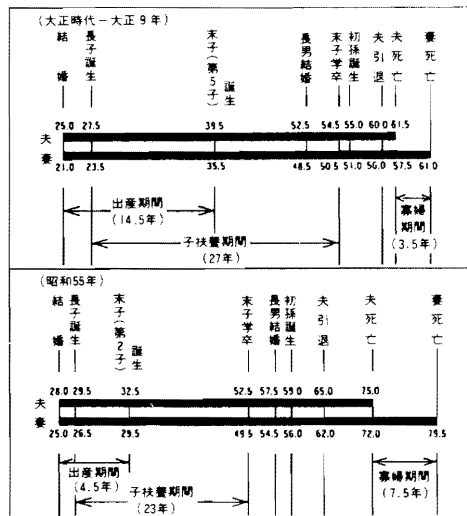


図2 ライフサイクルの変化



(ロ) いかに発問するか

- (i) 高齢化社会における自己の確立
- (ii) ライフサイクルの変化 (図2)
- (iii) 出生率をめぐって (各国政府の対応)
- (iv) 迷信という慣習について

(ハ) おわりに

冒頭にあげた人口ピラミッドを見ると、大正7～8 (1918～19)年の人口激減がみられる。これはスペイン風邪の流行による病死が原因である。その後、病気の大流行による人口減は少なくとも日本ではあらわれていない。それはいうまでもなく医学の発達によるものである。か

つて1346年ヨーロッパで大流行したペストによる人口減のため、結果的には農奴の解放という歴史的・社会的変革をもたらしたことを考えあわせ、誠に今昔の感にたえない。しかしその科学が殺人手段として利用され、さらに遺伝子の組みかえによって生命を自由に支配できるほどにまで発達した。科学と人間の尊厳との関係も重大なテーマである。

また、戦争の影響も人口ピラミッドから読みとれる。しかし、一つのテーマに多くの問題を盛り込むのは飽きを生じさせる危険があるので、気をつけたい。

(参考図書「飢餓の大地」鈴木喜代春著)

(2) 「地図の指導について」

(イ) 大縮尺図の指導

我々の生活に密接に関係しているので、各単元で教材化している。生徒には、「地形図の読み方」横山 卓雄著を配布している。

(ポイント)

- (i) 地形図を持って歩くときの大原則
- (ii) 地形図と風景
- (iii) 地形解読のための補助用具について

(ロ) 小縮尺図の指導について

—世界の航空交通—

航空機時代の今日、しかも国際的な交流の中で生活する我々にとって、この単元も次のような順序でアプローチを試みた。

- (i) 世界の主な航空会社を“マーク”から知ろう。(図3)
- (ii) 日本との繋がりを“空港”で確認しよう(PANAMとJAL)(図4)
- (iii) “時差”を考えよう。(図5)
- (iv) 小生の体験 “ヨーロッパきこう”(弘大地理研)

(3) 津軽塗の現状と課題

—地場産業を通して—

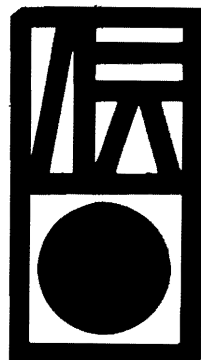
(組合名)

- ① 青森県漆器商工業(協)
- ② 弘前津軽塗商工業(協)
- ③ 津軽塗漆工(協)
- ④ 津軽塗団地(協)

(4) 世界の国々を覚えよう。

(i) 16級から1級まで

珠算、簿記、タイプ、情報処理、ワープロ検定なみに国名を級分けし、白地図のうえで確認させる。因みに1級の国名は次の通りです。



伝統マーク 53-013

通産大臣指定伝統的工芸品

(1級) ○バヌアツ ○モルジブ ○イエメン-アラブ ○サントメ-プリンシペ
○ガボン ○マラウイ ○スワジランド ○アンドラ

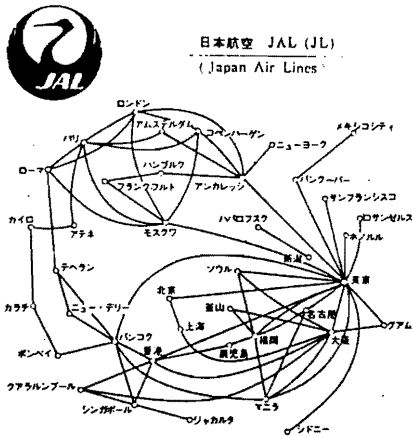
(ii) 各国の建国記念日一覧) 省略
(iii) 世界各国要覧

4. とりとめのない事をただ羅列しただけですが、地理学習はいかに資料を教材化するかにかかっているとされるので、これからも微力ながら頑張りたいと思う。(完)

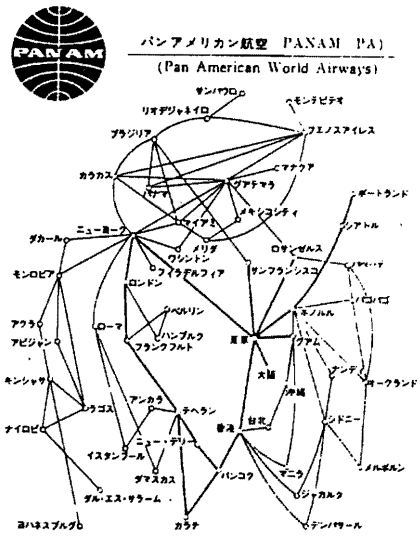
図3 航空会社のマーク (部分)



図4 日本とのつながり (JAL・PANAM)

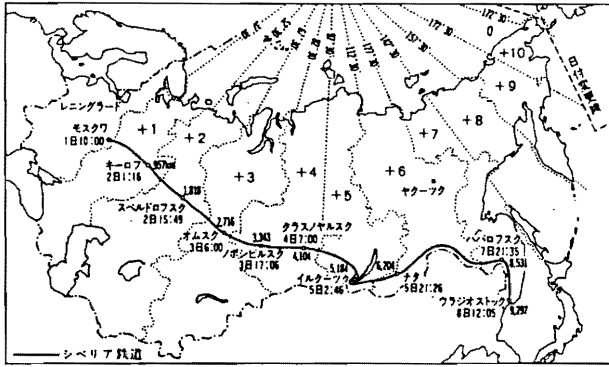


国際線を経営する日本第1の航空会社。1954年に太平洋空路を手始めに国際線に 진출し、以後激しい国際競争の中において順調に路線網を伸ばし、1967年には大西洋横断が実現し、特筆の世界一周路線が完成して、今や世界の代表的航空会社の互指にランクされる実力を備えている。
香港、バンコク、ソウルへは毎日就航。ヨーロッパへは南回りと北回りを合せて週15往復。ハワイ・アメリカ西海岸へは毎日3往復となっている。モスクワ経由パリ、ロンドン、コペンハーゲン行き。その他は合せて週7便。シドニーへは週3便。北京へは週2便運航している。保有機B747-20機、B747SR-7機、DCR-41機、DC10を含む約75機。



国際線を専門に営業するアメリカの航空会社で、全世界に多くの空路をもち、国際線輸送量では世界一を誇り、2位以下を大きく離している。日本への空路開設は1947年から。東回りと西回りの世界一周路線は毎日1便ずつボーイング747で運航。他にボーイング747でサンフランシスコへ、ボーイング747SPでロサンゼルス、ニューヨークへそれぞれノン・ストップ便を毎日運航。グアムと香港にも飛んでいる。保有機、B747、30機を含め約140機。

図5 時差を考える。



〔ソ連の標準時帯とシベリア鉄道〕

- ① 標準時帯：+の数字はモスクワとの時差をあらわす（モスクワが午前10時のときヤクーツクでは午後4時）。
- ② シベリア鉄道：㊦モスクワを第1日目の午前10時に発車した特急「ロシア」号の到着日と到着時刻（モスクワ時で示す。モスクワからウラジオストックまで7日2時間5分かかる）。㊧モスクワからの距離（kmで示す。モスクワからウラジオストックまで9,297km）。